

玉垂

たまだれ
No.49



みくじ結び場の枝垂桜 (平成28年4月8日)

<http://www.okunijinja.or.jp>

春の訪れによせて

年明けより厳しい寒さが続きましたが、ここ数日は一雨ごとに暖かさが増してまいりました。神々が運ぶ季節の繊細な移ろいを全身で感じ、感謝と日々の安寧を祈りながら暮らすことは、古来より受け継いできた日本人の大切な生き方です。氏子崇敬者の皆様方には、ご健勝にてお過しのことと拝察申し上げます。

さて、此の度、平成二十九年四月三十日から五月十四日まで、当社特別展示室において「高円宮家根付コレクション展」(小國神社でふれる根付の今昔)を開催させて頂くこととなりました。高円宮憲仁親王殿下と同妃久子殿下が蒐集された「現代根付」、「古根付」約百六十点を公開致します。「根付」は、和装において印籠やたばこ入れなどを腰に下げる滑り止めの道具として始まりました。江戸町人文化の粹として発達し現在に至るまで優れた作品が数多く制作されています。明治以降、服装の洋風化に伴い実用的工芸品としての役割を離れ、美術品として世界的に高い評価を受けています。日本独特の繊細な美的感覚が生んだ世界に誇れる美の世界です。是非この貴重な機会に多くの皆様に、我国の長い歴史の中で培われた文化の魅力にふれて戴きたく存じます。

ところで、昨今諸外国では長きに渡り世界を席卷した、いわゆる新自由主義を背景としたグローバリズムの転換の契機となるような事態が相次ぎました。英国の欧州連合離脱や、「アメリカファースト」を掲げた米国の新大統領の誕生はその象徴的な出来事であったと存じます。グローバリズムは地球規模の経済活動として「人」・「物」・「金」の行き来の壁を無くします。一方で、全てを画一的に捉え、文化の多様性の否定に繋がる側面も持ち合わせています。真のグローバリズムとは、言語や宗教の違いを正しく理解し、またそれを認め合うことができこそ成り立つものではないでしょうか。職員一同、神慮を畏み、国の安寧と世界の平和を祈り、社務に精進致したく存じます。各位のご壮健をお祈り申し上げます。

年末年始のご報告



平成29年鉄のオブジェ『丁酉』 制作:鈴木格子様



新春初祈禱祭の齋行(1月1日午前0時)



多くの参拝者で賑う参道(1月4日)



歳旦祭 宮司玉串を奉りて拝礼(1月1日)



田遊神事 賑わいの餅撒ぎ(1月3日)



八王子社例祭 奉射神事(1月17日)



特殊神事 手新始祭 墨付け(1月11日)

節分祭の齋行

二月三日午後二時、八十七名の年男役・年女役のご奉仕を賜り、節分祭を齋行いたしました。

拝殿では、色とりどりの大紋に身を包んだ奉仕者は神職とともに、追儺神事や宝槌打振り神事、福笑い神事などの厄災を祓い、福を呼び込む数々の神事を執り行いました。

本年の特別奉仕者は、NHK大河ドラマ「女城主直虎」にも出演されている俳優の笈利夫さんとリオ五輪レスリング女子六十三キロ級金メダリストの川井梨紗子さんにご奉仕をいただきました。



節分祭特別奉仕者
女子レスリング金メダリスト 川井梨紗子様(左) 俳優 笈利夫様(右)



笈利夫様
奉納のサイン入り福俵

境内には、特別奉仕者のお二人を一目見ようと多くの参拝者が詰めかけました。豆撒き神事では、奉仕者によって豆が撒かれると、境内は歓声に包まれました。

橘地区・若宮八幡神社・合祀祭の齋行

去る十一月三十日(水)午後三時より塩井神社において、若宮八幡神社合祀祭を齋行いたしました。

古来より、若宮八幡神社は橘地区の守り神として大切にお祀りされてきました。

一方、集落の過疎化の影響を受け、これからの神社の存続を危惧する声があがり始めました。

当社では、関係者と協議を重ねた結果、若宮八幡神社のご祭神菅田別命を末社塩井神社の相殿にお移りいただき、祭祀を継続することとなりました。

今後は、塩井神社の相殿の神様としてお祭りし、伏間地区・橘地区の守り神としてご鎮座されます。

小国神社末社 塩井神社

祭神 塩筒老命 (しおつのおのみこと)
相殿 菅田別命 (ほんだわけのみこと)
祭事 例祭 二月十五日

由緒 四月十五日 (舞人浜下り)

古来より小国神社の末社として、また伏間の里の守護神として里人より崇敬された。延宝八年(西暦一六八〇年)の小国神社の社記に「此の塩井は常に千満有り味わひ潮の如し、霖雨洪水の時分塩無き時は此の塩水を汲みて用ふる也」と記されて居り、今も塩井は胃腸の薬また魔除けのお札になる。塩井汲みの崇敬者が遠近より参拝されます。

新たに設置された由緒書(平成28年11月30日)

師走の大祓式齋行

十二月三十一日大晦日の午後三時より師走の大祓式を齋行いたしました。

大祓式は、日々の生活の中で知らず知らずのうちに犯してしまった罪や身についた穢れを身代わりとなる人形(ひとがた)に託して祓い清める神事です。

本年は、約五〇〇名のご参列のもと、清浄な心と身体で新しい年を迎えられるようにお祓いをいたしました。

続いての一年を締めくくる除夜祭では、大神様に一年の無事を感謝し、佳き年を迎えられるようにお祈りいたしました。

また、本年六月三十日には、夏越の大祓式を齋行し「茅の輪くぐり神事」を行います。ご家族でご参列下さい。



大祓式 祓物を八針に裂く(平成28年12月31日)

田遊祭・田遊神事の齋行

一月三日(火)午後一時より田遊祭を齋行し、引き続き舞殿にて田遊神事が奉納されました。

田遊びとは、新年の豊作を祈り、田作りから刈り入れまでの農作業過程を擬似的に演じる神事芸能です。

当社の田遊神事は鎌倉時代にはすでに成立していたとされ、朴訥な所作や唱え詞を中心とした見立て芸が古のまま伝わっています。平成十九年には、国選択「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に登録され現在にいたります。

齋行後は、奉仕者より牛玉神札の授与や投餅が行われ、参拝者とともに新年の豊作をお祈りいたしました。



田遊神事 六番 苗草踏み(1月3日)

第七期第二回遠州とこわか塾開催のご報告

本講義には、作家・ジャーナリスト西村幸祐先生をお招きし、「二十一世紀の脱重論」と「日本の自立」(トランプ大統領の誕生を巡って)と題しリアルタイムな世界情勢についてのご講話を賜りました。

我国は、特定アジア(中国・韓国・北朝鮮)と適切な距離を置き、台湾、インドを始めとする様々なアジア諸国と手を携えながら世界の安定的な平和を目指し、今後の国際的な立ち位置を示してゆかなければなりません。

本講義を受講し、塾生一同、祖先から受け継いできた日本人の精神姿勢に改めて思いを致し、これからの日本の未来を切り開く糧となりました。



講師 ジャーナリスト・作家 西村幸祐先生

紀元祭の齋行

本年は、初代神武天皇が日本の国を建国されてより二六七七年となります。

二月十一日(土)当社では、建国の偉業を仰ぎ、国家の発展をお祈りする紀元祭を執り行い、四〇〇余名の参加者とともに奉祝式典を開催いたしました。

また、「日本の神話に親しむ会」による古事記絵巻が上演され、子どもたちは、興味深く聞き入っていました。

我国は、建国の起源を神話に求めることができます。神代から現在まで一本の糸で繋がる世界でも類い稀なる国家です。

日本の国柄を正しく知り、その精神を後世に伝えていかなければなりません。



大型神話絵巻「国生みの話」上演(2月11日)

祈年祭の齋行

境内の梅が咲き揃い春の訪れを感じる二月十八日(土)に祈年祭を齋行いたしました。

我国は、稲作を中心とする農業をもとに栄えてきました。年の始めに穀物の豊かな実りを祈る祈年祭は、日本を象徴する大切なお祭りの一つです。

また、収穫の秋に豊かに実った新穀をお供えし、ご神恩に感謝する新嘗祭と対をなすお祭りでもあります。

現在では、穀物の豊穡とともにあらゆる産業の発展もお祈りしています。

また、本年も松尾貞子様よりキャベツや大根などを多数ご奉納いただき、ご神前にお供えしての齋行となりました。松尾様のご厚志に深く感謝申し上げます。



祈年祭 本殿への参進(2月18日)

初甲子祭の齋行

二月六日(月)寒明けの最初の甲子の日に初甲子祭を執り行いました。甲子の日は、当社のご祭神「大己貴命」が「国作り」を始められた日と伝わる縁日です。

なかでも、初甲子の日は特にご霊験あらたかな日とされ「願い事のままに叶う日」とも伝えられています。

また、初甲子祭では特別にご本殿の廻りを歩いてお参りすることができます。氏子崇敬者の皆様は、大神様の間近にて日々の感謝の気持ちを捧げ、心静かにお祈りをされています。
お参りの後、一様に晴れやかな表情の皆様は、早くもご加護をお受けになったことと拝察いたします。



大神様のご加護を受けられたご参列の皆さま(2月6日)

静岡県神道青年会 神道行法「大寒禊」の実施

一月二十日(金)、静岡県神道青年会が主催する、恒例の「大寒禊」を執り行いました。青年神職と地元有志の参加者、約四十名が天竜川に集まり、寒水に身を沈め、心身を清めました。

「禊(みそぎ)」は「禊祓(みそぎはらえ)」とも言われ、古事記・日本書紀には伊邪那岐命が初めて禊をされた様子が記されています。心身の清浄を尊ぶ神道精神の根幹を表わす祓い清めの行法の一つです。

「大寒」の最も寒さの極まる中での禊は、一層身が引き締まるものとなり、清々しい姿に立ち返ることができました。



大寒禊 心身共に清らかな姿へ立ち返る(1月20日)

小國神社氏子青年会活動のご報告

小國神社氏子青年会では、年末年始にかけて数々の奉仕活動を行いました。新年を迎えるに当たり、会員一同力を合わせて奉製した注連縄を奉納いたしました。

年明けには、参拝者への開運福だるま授与をご奉仕し、一月中旬には、どんど焼きにておはたき餅の授与奉仕を行いました。

これらの奉仕活動を通して多くの参拝者と接する中で、大神様に奉仕する青年会の一員としての自覚を新たにいたしました。

二月には、建国祭奉祝パレードでは子供達の引率を行い、次代を担う若い世代に日本の建国理念を伝える活動を行いました。



「おはたき餅」授与の準備に取り組む会員(1月15日)

第五回「人と暮らしとかみのたな展」の開催

一月十四日(土)より二十二日(水)までの八日間、静岡市内ギャラリー濱村にて、(有)静岡木工が第五回「人と暮らしとかみのたな展」を開催しました。

日々の「感謝」の心を神さまに届ける祈りの場「かみだな」を設けることの大切さと「神さまを身近に感じて一日を始める丁寧な暮らし方」を広く伝える催しとなりました。

また、「ご朱印」を受ける参拝者の増加に伴い、サブテーマを「静岡一宮巡拝」とし、県内で一宮として親しまれる三嶋大社・富士山本宮浅間大社・小國神社の由緒の紹介と各社のご朱印も展示し、来場者が関心を寄せていました。



注目を浴びるグッドデザイン賞受賞の神だな(1月23日)

まつり歳時記

三月〜六月

三月

弥生やよい

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十七日 真田城趾霊祭 (午前十時半)
- 十七日 鉾執社例祭 (午後一時半)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十日 春季皇霊祭遙拝式 (午前九時)
- 二十二日 一官祖霊社春季祭 (午前十時半)

四月

卯月うづき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 二日 一宮とくら祭 (午前十時)
- 二日 勧学祭 (午前十一時)
- 三日 神武天皇祭遙拝式 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 八日 杉祭 (午前九時)
- 八日 全国一宮等合殿社例祭 (午前九時半)
- 十三日 献茶祭手揉み保存会 (午前九時)
- 十三日 垢離祭 (午前十一時)
- 十三日 舞揃 (午後二時)
- 十五日 猷詠祭 (午前九時)
- 十五日 氏子入り奉告祭 (午後二時)
- 十五日 十二段舞楽奉奏 (午後二時)
- 十六日 十二段舞楽奉奏 (午前十一時)
- 十六日 神幸祭 (午後二時)
- 十七日 前日祭 (午前十時)
- 十八日 例祭 (午前十時)
- 二十九日 昭和祭 (午前八時)

五月

皐月さつき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 五日 端午祭 (午前十一時)
- 六日 本宮山青葉祭 (午前十一時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)

六月

水無月みなづき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 一日 花菖蒲開園奉告祭 (午前九時)
- 四日 花しようぶまつり (午前十時半)
- 六日 甲子祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十二日 御田植祭 (午前九時)
- 三十日 夏越の大祓式 (午後三時)



杉に着生したセッコクの花(平成28年5月22日)

第15回

古代の森小國神社写真コンテスト

○ 作品募集 ○

ご好評いただいております。古代の森 小國神社写真コンテストの第十回を今年も開催いたします。

本コンテストはテーマ事に3部門の応募枠があり、部門1…境内に咲く草花・樹木などの自然、部門2…祭事・催物、部門3…野鳥となっております。

小國神社の祭事や伝統が持つ厳かさ、自然の魅力を表現した作品を募集しています。

また、今回より昨年七月から本年六月まで一年間に撮影された作品が対象となりました。応募期間は六月一日(木)から七月十日(用)(必着)となります。

応募用紙は神社、また県西部の写真各店にございます。応募規定をよくお読みいただいた上、ふるってご応募ください。



最優秀賞 晩秋の宮川(撮影 加藤義昭)



春を呼ぶヒヨドリ(撮影 杉本昌弘)

高円宮家根付コレクション展

小國神社でふれる根付の今昔

◆開催のご案内◆

この度、高円宮憲仁親王殿下が久子殿下とともに蒐集された、現代根付・古根付約一六〇点を展示いたします。本展では、主だった作家や素材を網羅する高円宮家のコレクションを公開し、根付の多様な姿を紹介します。

特に、現代根付には象牙や黄楊などの伝統的な素材の他に様々な材料が用いられ、一つ一つに斬新な創意と工夫が凝らされています。

「根付」は、印籠やたばこ入れなどの「提げ物」(さげもの)を腰に提げる時に使う、滑り止めの道具です。江戸時代に発達し、現在に至るまで、優れた作品が数多く制作されてきました。明治以降は、日本人の服装が洋風化

された結果、実用的工芸品という位置付けから離れていきました。

その一方で、現在、根付はそれ自体が独立した美術作品として世界的に高い評価を受けています。

貴重なこの機会に多くの皆さまにご覧いただき、日本文化の魅力を感じて下さい。

期 間

平成二十九年四月三十日(日)～五月十四日(日)

開館時間

十時～十六時迄

場 所

小國神社特別展示室(参拝者休憩所二階)

入場料

五〇〇円 小学生以下無料



高円宮家根付コレクション展

小國神社でふれる根付の今昔

2017 4.30sun ~ 5.14sun

小國神社特別展示室

開館時間 午前10:00～午後16:00



古式十二段舞楽 十一番 納蘇利(平成28年4月17日)

平成二十九年例祭期間のご案内

四月十八日(火)、当社で最も重要なお祭りの一つである「例祭」を斎行いたします。この日は、「祭神」大己貴命が本宮山に鎮まった由緒ある日です。

本年の日程は、十五日(土)氏子入り奉告祭・十二段舞楽奉奏、十六日(日)神幸祭・神輿渡御・稚児行列・勅使行列、十二段舞楽奉奏(終了後投餅)、十七日(月)前日祭、十八日(火)が例祭の斎行となります。

十六日は、弓道愛好家による大弓会、新茶の手もみ実演や甘酒の無料授与が催され、大変賑やかな一日となります。

ご縁日にご参拝いただき、大神様のご加護をお受け下さい。

勸学祭・氏子入り奉告祭のご案内

本年の勸学祭は、四月一日(土)午前十一時より執り行います。

氏子地域の小中学校に入学するお子様にご参列いただき、学業成就や身体健全、交通安全をお祈りいたします。

氏子入り奉告祭は、四月十五日(土)午後二時より行います。平成二十八年一月一日から平成二十八年十二月三十一日までにお生まれになられたお子様と嫁入り・婿入り・転入居住された皆様にご参列をいただき、当社の氏子に加わったことをご神前に奉告し、家内安全、無病息災のお祈りをいたします。

お申し込みは、各地区の総代を通して行います。ご家族皆様でご参列下さい。



新小学一年生の子どもたちによる玉串拝礼(平成28年4月2日)

第六回神社検定ののご案内

毎年おこなわれるこの「神社検定」

は、神社が好きなお方はもちろん、日本文化をもっと知りたい方のための検定です。日本文化の源流である神道は、普段気がつかないほど私たちの生活に溶け込み慣習や風習となっています。

神社検定で、正しい知識を学ぶことは、自身の中にある「日本のこころ」を再発見することに繋がります。

今回の開催日は六月十八日(日)で当社研修室にて実施します。申し込みは五月十一日(木)に締め切りとなります。

お申し込み方法等の詳細は、「神社検定」のホームページにてご確認ください。



熱心に自習をする受験者の皆さま
(平成28年6月26日)

一宮さくら祭開催

四月二日(日)午前十時より恒例の「一宮さくら祭」を開催いたします。

メイン会場となる門前駐車場には露店が並び、バンド演奏やフラダンス、さらには日本舞踊や真剣による演武など、もりだくさんのプログラムとなっています。

また、舞殿では琴・尺八の演奏が奉納され、優雅な音色がご神域に響き渡ります。

参拝者休憩所前では、毎年好評の甘酒無料接待もおこないます。

夕刻からは、門前宮川沿いの桜のライトアップもおこないます。

皆様お誘い合わせの上、お出かけ下さいませようご案内いたします。



ダンスJFBによる
フラダンスパフォーマンス(平成28年4月3日)

稚児行列奉仕者を募集いたします

四月十六日(日)午後二時より神幸祭の稚児行列を執り行います。

古くから、稚児(ちご)は神さまに近い清浄な存在として考えられてきました。そのため、様々な神事において、神々が宿る神聖な存在として重要な役割を果たしてきました。

つきましては、本年も大神様のご加護のもと晴れやかにご奉仕下さるお稚児さんを募集いたします。

○募集要項○

- 一、対象者 小学三年生位までの男女
- 一、参加費 五、〇〇〇円
- 一、募集人員 若干名(先着順)
- 一、申込締切 四月一日(土)
- 一、お申込み 〇五三八一八九一七三〇二

「小國神社振興会 稚児行列係」



稚児行列奉仕の子どもたち(平成28年4月17日)

献詠祭和歌募集

当社では、献詠祭にて、ご神前に奉納する和歌を募集しています。

和歌は神代より続く日本の文化であり、古事記には我国で初めて詠まれたとされる速須佐之男命の歌が記されています。

日本人は古来より歌を詠むことで言葉に託された様々な思いに触れ、豊かな感性を育んできました。

つきましては、先の要項にて多数のご応募下さいますようお願い申し上げます。

募集要項

- ◆兼題 「舞楽」「鳥」
- ◆用紙 短冊

(歌は楷書にてお書き下さい。裏面に住所・氏名を明記下さい。)

◆献詠費 無料

◆締め切り 四月十日(月)

◆宛先 〒四三七七一二二六

静岡県周智郡森町一宮三九五六一一
小國神社祭儀課献詠係



古式十二段舞楽『太平楽』(28年4月16日)



美しく咲き揃った花菖蒲(平成28年6月11日)



紀元祭 賑わいの餅つき(平成28年2月11日)

命 名

平成二十八年十二月一日
〜平成二十九年二月二十八日

山下 華穂 富士宮市	高木偉乃真 森 町	赤沼 杜逢 袋井市
登坂 朔也 森 町	大城 璃奈 浜松市	砂川 樹生 磐田市
三谷 れな 磐田市	宮野 利綺 島根県	原野 光 掛川市
溝口 藍梨 菊川市	粕谷亜衣里 掛川市	村岡 結太 袋井市
山下 讓士 磐田市	市川 眞雪 磐田市	鈴木瑛太郎 袋井市
菅沼 夕暉 浜松市	菅沼 大輝 掛川市	中嶋 亮太 埼玉県
佐藤 叶人 森 町	中村 嘉仁 掛川市	宮本 葉月 掛川市
松尾 柚希 森 町	石樽 孝丞 袋井市	
小笠原花帆 袋井市	糸洲 里莉 磐田市	

○当社では、お子様の命名を
申し受けております。



鬼瓦に取りつけられたご神紋

古代の森シリーズ 49

神紋・社紋

神紋・社紋とは、家の紋章である家紋と同様に、各神社が使用している紋章のことです。

この紋章は、神社の職や幕などに描かれ、参拝の折りに見ることができま

す。神紋は主にご祭神の紋章で、社紋は神社の紋章とされます。一般的にはどちらでも神紋と呼ばれることがあるよう

です。神紋の由来は古く、平安時代の成立と言われています。ご祭神・神社にゆかりのある文様が使われ、約百二十種類が現存しています。

当社の神紋は「三つ巴紋」と言い、古来より魔除けや防火の祈りを込めて社殿の鬼瓦や釘隠などに使用されてきました。

斎庭の草花 9

ハナミヨウガ

当社は、四季折々の自然に恵まれた豊かな杜に生まれ、境内には多くの草花が息づいています。

シリーズでご紹介するご神域の写真の数々は、崇敬者の山崎克巳様の奉納写真をもとに掲載をしています。

ハナミヨウガ(花茗荷)

ハナミヨウガ属
花期 五〜六月 草丈 30〜60cm

生育地 山の木陰
分布 本州(千葉県以西)・四国・九州

ハナミヨウガは木陰に多く生える多年草です。花期には直立した花の穂に、薄紅色をした細長い粒状のつぼみが数多く着きそこから、白地に薄紅色の筋が入った花弁が覗きます。



花茗荷

「小國の杜」点描



徳川宗家 徳川家広様のご参拝(平成28年12月5日)



節分祭 賑わいの豆撒き神事(2月3日)



スーパーカー愛好家による新春交通安全祈願(1月5日)



本宮山 奥磐戸神社のご例祭(1月16日)



御弓始祭 奉射神事(1月17日)



どんと焼きの浄火(1月15日)

平成二十八年三月二十日
 「玉垂」(たまだれ) 第四十九号
 題字揮毫 神社本廳元総長 工藤 伊豆
 発行 小國神社社務所
 郵便番号 四三七一〇二二六
 住所 静岡県周智郡森町一宮三九五六一
 電話番号 〇五三八(八九) 七三〇二
 FAX 〇五三八(八九) 七三六七
 印刷 (有)デザインオフィス エムエスシー

平成二十八年四月八日十二時〇三分に撮影いたしました。桜木の下、仲睦まじいお二人のお姿に大神様もお喜びの事と存じます。

表紙写真について

〇「玉垂」四十九号をお届けいたします。
 三月から初夏にかけて花々が咲き揃い、穏やかな太陽の光が降り注ぎ、草木が萌える一年で最も自然の力強さに満ちた季節となります。
 季節の移ろいにて心を寄せて営む生活は、私たちが清純な姿に導いてくれます。
 〇次号「玉垂」五十号を記念して紙面のリニューアルを行います。より多くの皆さまに当社の魅力が伝わるように紙面を整えて参りたく存じます。

編集後記



敬神婦人会による節分豆の袋詰め奉仕(1月25日)